



奉仕を通じて
平和を

田中作次
2012-13年度
国際ロータリー会長

【2012-2013年度RIテーマ】

FUJIEDA SOUTH ROTARY CLUB

藤枝南ロータリークラブ会報

例 会：毎週金曜日 小杉苑 藤枝市青木2-35-30 TEL：054-641-3321
事務局：藤枝市青木1-11-10 TEL：054-647-2300 FAX：054-647-2040
E-mail:club1991@fujieda-rotary.org

会長：村松 章隆 副会長：早川 清人 幹事：内山 淑夫 副幹事：松浦 正秋

第1042回



- ソング 四つのテスト・ピクニック
- ソングリーダー 中山 恵喜君

■ 会長報告

村松 章隆君

こんにちは！本日は、外部卓話として平井さんをお迎えしての例会です。後程、平井さん、よろしくお願ひします。



さて、私の任期も来月で終わりますが、会員のみなさんから、あと1カ月だねと声掛けをいただいています。お陰様でとって、笑って、答えております。今日も、会員の薫品さんにも声かけをされました。

話は変わりますが、地震の話をしていただきます。政府の地震調査委員会がまとめた駿河湾から九州沖の南海トラフで発生するマグニチュード8以上の巨大地震発生確率は今後10年以内で20%程度、20年以内で40～50%、30年以内で60～70%と予測する長期評価を発表した。同委員会では、「M8以上の地震が起こる切迫性はかなり高い。次回が最大クラス（M9.1）となる可能性はゼロではない」と指摘した。法人会社会・経済のうごき@新聞より備えあれば憂いなしで、準備をしないと怖いですね。

さて、最後に、来る6月4日は、ワールドカップの出場が決着するかの一番の試合が埼玉スタジアムで、まだ勝っていないオーストラリアと日本代表が対戦いたします。この地区からも応援に行く方も多いと聞いています。大変楽しみで、藤枝出身の長谷部キャプテンを中心にチームが一つにまとまり、日本中が注目しておりますので是非勝って、日本中の皆さんと喜びを分かち合いたいと願っています。

■ 幹事報告

内山 淑夫君

- 2620地区より
志太ガバナーエレクトの新年度に向けての挨拶が届いております。
- 事務局より
震災復興支援バザーへ4,840円送金しました。
- ザ・ロータリアン誌6月号が届いております。

■ 出席報告

望月 誠君

本日のホームクラブ出席者	前回の補正出席者
36/43 83.72%	38/43 88.37%

- (1)欠席者（事前連絡とメイクアップをどうぞ）
○池ヶ谷君 ○伊藤彰君 ○漆畑君 ○小池君
○山田君 ○渡邊博君 江崎君

■ スマイルBOX

望月 誠君

- 26日に長男が結婚しました。家族が一人増えましたが、何となく妙な気分です。

稲葉 俊英君

スマイル累計額 557,332円

■ 外部卓話

郷土の“大津波”
伝説を探る
平井 登様



東海地震は、警告以来40年以上の年月が過ぎ、一昨年のM9.0という東北地方太平洋沖地震の発

生により、国をあげての地震研究が一段と活発になり、今後、東海地震は単独で起きるのではなく東南海・南海地震と連動する大規模な地震になることが想定されております。そんな影響で新聞をはじめとした最近の報道には、南海トラフ巨大地震に関する記事が頻繁に見られますが、本日、皆さんにお話しする内容は、南海トラフ巨大地震の被害区域としてもっとも危険視されている私たちの郷土・志太地域には、過去何回も巨大地震・大津波が襲来していたことを史料をもとに概説し、とくに中世以前に発生した巨大地震と伝承をつき合わせていきます。取り上げるのは、①焼津市坂本にある林叟院の由来 ②岡部町の玉取神社伝説、そして③滝沢から島田市伊久美へ越える桧峠地区に伝わる地蔵尊伝説の3つですが、類似する伝承を残す高知県の話も織り交ぜ、また、当時の地形・海岸線も考慮し、興味深くお話ししたいと思います。とりわけ、焼津坂本にある林叟院由来は、文献史学と歴史地震学が一致した真実のことであります。一方、岡部玉取神社伝説と桧峠の地蔵尊伝説は、あまりに古い時代に起きた巨大地震大津波に因むためか、いつの時代のものか定かではありませんが、今日は、この辺も追究していきたいと思っております。原始・古代を生きた先人達が被災した苦難の記憶としての伝承（口碑）は、今を生きる私たちに、そして未来へ続く子孫への警鐘メッセージであり、大切に伝えていかなければなりません。

■取り上げた伝説と史料

(1) 林叟院の靈験譚（焼津市坂本）

①『林叟院草創之記』（小川港にある林叟院草創之地・記念碑）

文明3年（1471）、開基長谷川法栄居士は賢仲繁哲禅師を請して、此地先に一寺創立して林叟院となづく、明応6年（1497）にいたり異叟の示唆により坂本村に移転、翌7年8月大津波の為当地は巨海と化す、海底に残存した山門礎石も明治41年漁網に障として爆破せりと言う。

②『林叟院開闢歴世記』

明応七年八月二十五日、大地震動海水大涌而溺死者凡二萬六千餘人也、林叟之舊地忽變而為巨海也」

③『妙法寺記』（山梨県都留市の日蓮宗妙法寺住僧の年代記）

「八月二十五日辰剋に大地震動而日本國中堂塔

乃至諸家悉頗れ落、大海辺は皆々打浪に引れて伊豆浦へ悉死失す、小川悉損失す」

(2) 玉取神社伝説（岡部町玉取）

神代の昔、日本武尊が東国の賊を征伐に出かけた時のこと。二つの玉、一つは水石、もう一つは火石を持って焼津神社の地に來た。立派な神社を作って信仰を深くした。この玉は市杵島姫命の神体というのである。

ところがある年のこと、焼津を含めてこの地方に大津波がおそった。波は荒れ、逆流して入江から岡部の谷にまで入りこんだ。ために焼津神社の神殿はこわれ、神体の玉も共に流れて消えてしまったはずなのに、岡部から更に山深く入った朝比奈川の上流、今でいう玉取の里に流れつき、里人に拾われて、地元の小さな寺に納められた。この寺は玉伝寺と呼ばれた。その後この寺とは別に、神体であるからというので神社をたて、玉取神社と呼んであがめたてまつった。このことから玉取神社のあるこの部落を玉取と名づけられたという。『岡部史談』第2集（岡部町文化財保存協会）より

(3) 桧峠の地蔵尊伝説（島田市伊久美）

六十八代後一条天皇の寛仁元年（1017）、駿河の海で、まれにみる大津波が起きました。この津波のため桧峠のふもと鰺沢（藤枝市上滝沢）まで潮波が打ち寄せたとのことです。村人達は、この桧峠に上って避難したのですが、津波が引けたある夜のこと、草むらの中が不思議にも光っていることに気づきました。毎晩同じ場所で同じように光を放つので、ある夜、竹や木の棒をもって恐る恐る近づいて行きました。近づくにつれ何とも言えないとてもいい香りが漂ってきました。そして光る場所を掘ってみると、小石や貝が貼り付いた石のお地蔵様が出てきました。村人達は、この不思議な光と香りを放つお地蔵様は、神様からの授かり物に違いないと、そこにお堂を建てて祀ったのです。小石や貝殻は、苦難にあったお地蔵様を守ったものとして一緒に祀られました。その場所は、「宝のような明かりを放つ石のお地蔵様」にあやかり「宝明石」という地名になりました。その翌年のこと、桧峠の近くにあった和合院玉蔵寺の坊さんが、ある晩、不思議なお地蔵様の夢を見ました。「わたしの体についている小石や貝殻を、奇病（天然痘）を患っている子供の身につけて清めてあげれば病気が治るであろう。そし

てわたしを信心し祀っていけば、この土地に住む村人の暮らしを守り豊かにしてあげましょう」とお告げになりました。お坊さんは、このお告げの地蔵様は、宝明石のお地蔵様に違いないと、さっそくお地蔵様について小石を天然痘で苦しんでいる子供たちにつけて祈禱をすると、病気も癒えて、村人の暮らしも豊かになった、ということがあります。

やがて、この小石と貝殻は「役石」と呼ばれ、領主・公家・天皇まで重視し、和合院の本寺である醍醐寺の命により、桧峠の和合院へ移した、とのこと。 『伊久美村誌』に一部加筆

◆白鳳地震の記録 ー 『日本書紀』

天武天皇十三年（684）十月十四日条

人定に逮りて、大きに地震る。国挙りて男女叫び唱ひて、不知東西ひぬ。則ち山崩れ河涌く、諸国の郡の官舎、及び百姓の倉屋、寺塔神社、破壊れし類、勝て数ふべからず。是に由りて、人民及び六畜、多に死傷わる。時に伊予湯泉、没れて出ず。土佐国の田苑五十余万頃、没れて海と為る。古老の曰はく、「是の如く地震ること、未だ曾より有らず」といふ。「是の夕に、鳴る声ありて鼓の如くありて、東方に聞ゆ。人有りて曰く、『伊豆島の西北、二面、自然に増益せること、三百余丈、更一つの島と為れり。則ち鼓の音の如くあるのは、神の是の島を造る響きなり』」といふ」

■ 今週の一言 若林 秀典君

父の家系は男が短命で（5人兄妹の男3人の次男が一番長生きして71歳）、母（今年で80歳）の家系は逆に長命（兄、姉も健在）で90歳ぐらいまで生きるのが当たり前になっています。私と母は22歳しか離れていませんので自分のほうが先に逝くのではないかと本人はもとより、家族も心配しています。

●例会プログラム●

例会日	クラブ行事	摘要
6/7(金) 第 1043 回	会員卓話	
6/14(金) 第 1044 回	会員卓話	
6/21(金)	休会④	
6/28(金) 第 1045 回	最終夜間例会	夫婦同伴例会

(担当／伊藤恒君)